

のせでん 平日ハイキング **中止となりました** 川西の古い道標めぐりコース(新中部編)



地蔵菩薩や青面金剛塔は道中の安全や除災を祈願したもので、先ず一礼してから見学してください。お賽銭やお布施にもご理解いただけると幸いです。

令和三年(2021)6月8日(火) 12km
一般向き 適度なアップダウンあり

保存版

③ 池田道にあった道標(建立年不明)
真ん中の一番大きな道標は、能勢地方から山原・畦野を経て池田方面へ通じていた池田道に置かれていた道標で、現在の鳴尾ゴルフ場あたりに建てられていたと思われる。上野は猪名川町静思館付近の字で江戸時代は上野村でした。

④ 加古川の舟渡し場の道標(建立年・不明)
なぜ10里(約40km)も西にある加古川の重たい石の親柱風のものがあるのかは分かりません。

⑤ 墓碑に刻まれた道しるべ(嘉永二年西暦1849)
柳谷の地区墓地入口に柳川利助の墓碑が建てられていて、その墓壇右端に道しるべが刻まれています。もとは柳谷村入口付近の中山道にあったものをこの地に移したようで、この人は柳谷村出身者、常盤山門弟の力士だと伝えられています。

公園の施設は皆でゆずりあって利用して下さい

B 若宮(わかみや)
14世紀の南北朝時代、足利軍に敗れた後醍醐天皇の皇子は満願寺の裏山の奥深くにあるこの地に側近と隠れ住んだという話が伝わります。15歳で崩御、墓をつつて丁寧に祀ったものの、北朝の足利側に探知され破壊されました。後に皇子を偲んで若宮の地名が生まれ、皇子の墓地跡が今の子安地藏尊の地といわれています。満願寺は正中二年(1325)に後醍醐天皇の勅旨によって勅願寺となっています。

⑥ 若宮の分岐点に残る道標(建立年不明)
後醍醐天皇の皇子ゆかりの若宮地区の出入口付近にあります。道標のすぐ先の分岐を右へ進めばトツケ峠越えて満願寺や巡礼道へ繋がります、やや左に直進すると愛宕山の山裾を東へ進んで⑦が立っていたと思われる分岐点に行けるようです。

C 力士の墓標(天保十四年西暦1843)
前述の柳谷地区同様、若宮地区も山深い隠れ里のような場所でしたが、相撲興行が盛んだったようです。それを示す力士、大坂常盤山猪名川取り縮まり配下、龍田川部屋、若緑榮蔵の墓標です。トツケ道と池田道の合流する付近に建てられています。近くを流れる紺青谷川(こんじょうたにがわ)の名前は多田銀銅山の中でも紺青石が多く採れたことに由来するようです。

② 猪名川町にあった道標(建立年・不明)
②③④ともに店舗敷地内の駐車場脇に大切に保存されています。右側の一番小さな道標は、左へ行くと槻並村、右は山の中ということから、猪名川町槻並の手前にある烏帽子岩橋あたりの分岐点に立っていたものと推測されます。

庚申(青面金剛)信仰は八世紀頃に渡来して宮中でその祀が行われ、後に民間信仰として普及し、悪疫侵入防止、悪魔除災、村内の安全平和などを兼ねて村の入り口に庚申碑を建てるようになったようです。

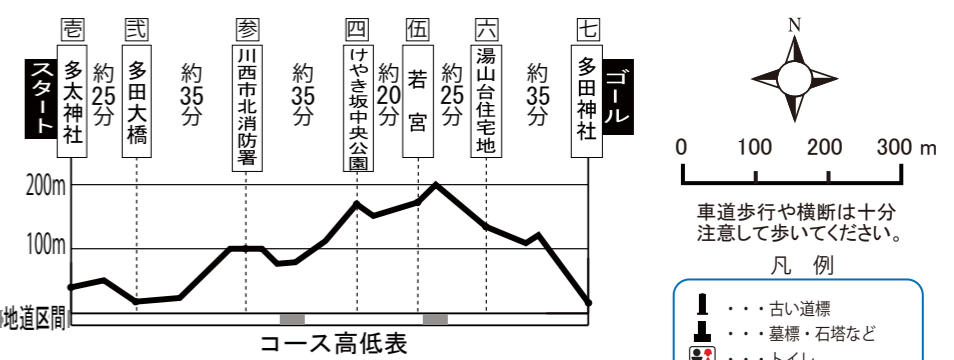
D トツケ峠
西多田村絵図には、若宮から満願寺に通じるトツケ峠がありトツケ海道と書かれています。トツケとは並外れたとか途方もないという意味で、当時はたいへんな難所であったと思われる。

すくい
A 寿久井の地蔵尊(通称:駒場地蔵尊)
源満仲(みなもとみつなか)の九頭竜伝説のひとつ。領地の巡視途中で年老いた女性が現れ、乱暴な龍を退治して欲しいと贈られたのが龍馬(りゅうめ)という頭に角が生えた馬。ひと鞭で千里を行き来して疲れない珍しい馬で満仲はたいへん可愛がっていました。龍馬が年老いて死んだ後も多田院に近い移瀬にお堂を立てて吊つたと伝わります。
【車道渡る際は左右の車にくれぐれもご注意ください!】

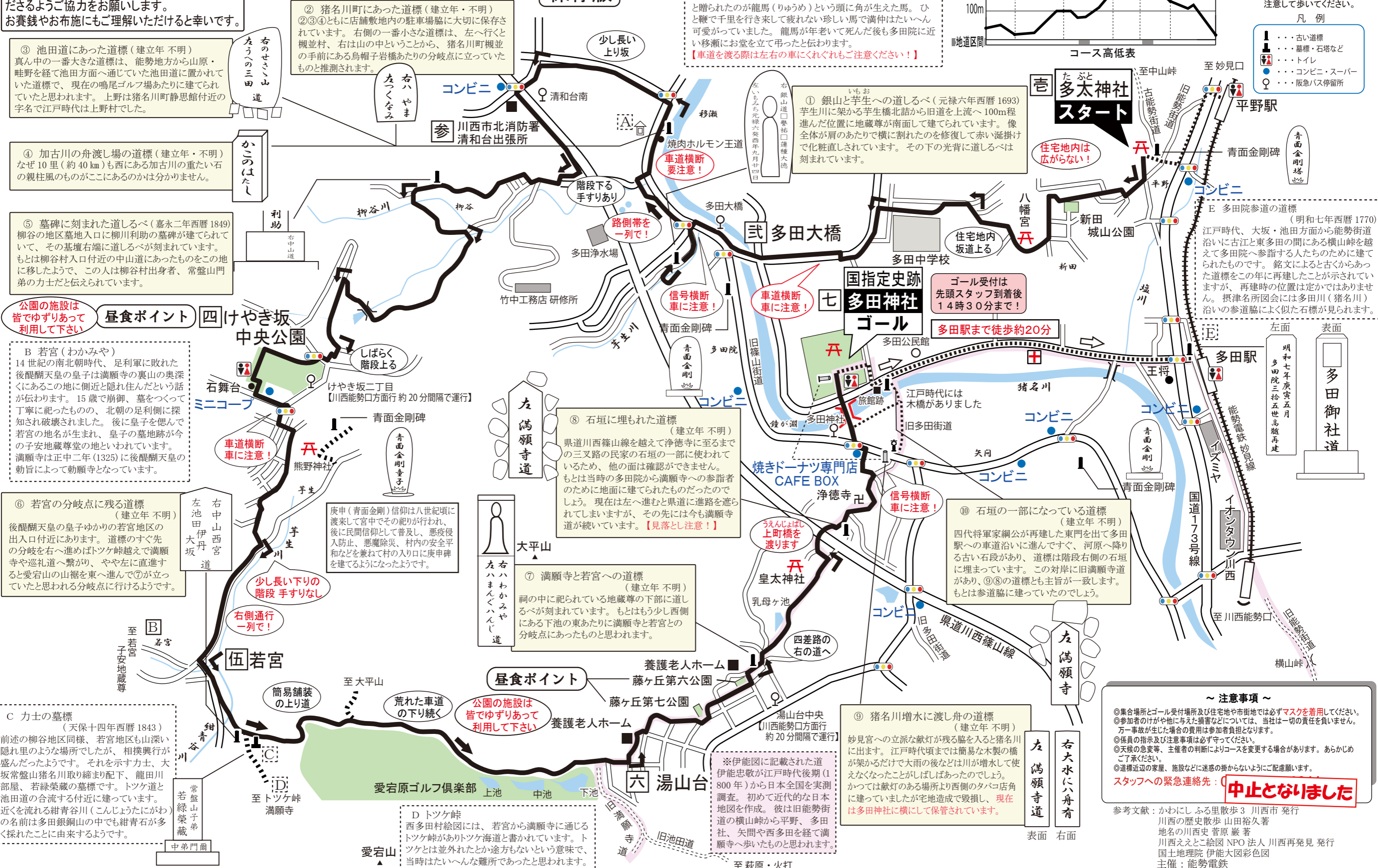
① 銀山と芋生への道しるべ(元禄六年西暦1693)
芋生川に架かる芋生橋北詰から旧道を上流へ100m程進んだ位置に地蔵尊が南面して建てられています。像全体が肩のあたりで横に割れたのを修復して赤い涎掛けで化粧直しされています。その下の光背に道しるべは刻まれています。

⑧ 石垣に埋もれた道標(建立年不明)
県道川西篠山線を越えて浄徳寺に至るまでの三叉路の民家の石垣の一部に使われているため、他の面は確認ができません。もとは当時の多田院から満願寺への参詣者のために地面に建てられたものだったでしょう。現在は左へ進むと県道に進路を遮られてしまっていますが、その先には今も満願寺道が続いています。**【見落とし注意!】**

⑦ 満願寺と若宮への道標(建立年不明)
祠の中に祀られている地蔵尊の下部に道しるべが刻まれています。もとはもう少し西側にある下池の東あたりに満願寺と若宮との分岐点にあったものと思われる。



車道歩行や横断は十分注意して歩いてください。
凡例
●...古い道標
■...墓標・石塔など
♿...トイレ
●...コンビニ・スーパー
♀...阪急バス停留所



多太神社 スタート

多田神社 ゴール

多田御社道
明和七年庚寅五月
多田院三捨五世高僧再建

～注意事項～
◎集合場所とゴール受付場所及び住宅地や市街地では必ず**マスクを着用**してください。
◎参加者のけがや他に与えた損害などについては、当社は一切の責任を負いません。万一事故が生じた場合は費用は参加者負担となります。
◎係員の指示及び注意事項は必ず守ってください。
◎天候の急変等、主催者の判断によりコースを変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
◎道標周辺の家屋、施設などに迷惑の掛からないようにご配慮願います。
スタッフへの緊急連絡先: 中止となりました

参考文献:かわにしふる里散歩3 川西市発行
川西の歴史散歩 山田裕久著
地名の川西史 菅原 巖著
川西えとご絵図 NPO 法人 川西再発見 発行
国土地理院 伊能大図彩色図
主催: 能勢電鉄